

群桐グループ  
2014年度 環境活動報告書



*Environmental report* 2014

# Contents

## 目次

### コーポレートデータ

環境方針	2
会社紹介 (株)群桐産業	3
群桐エコロ(株)	5
マネジメント体制	7
環境組織図	9
財務データ	10

### 社会報告

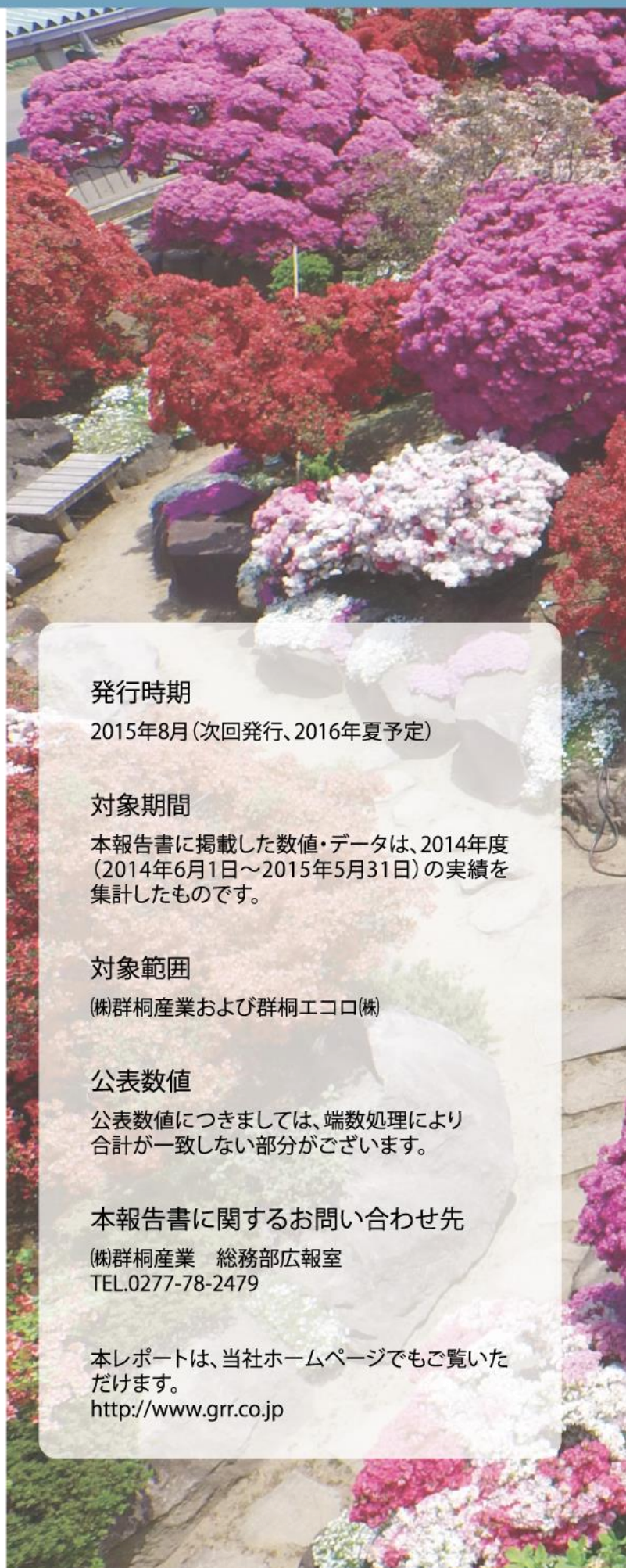
労働環境の向上	11
地域社会への貢献	13

### 環境と安全

環境目標と実績	15
環境への主な取り組み	17
大気環境測定結果	19
安全対策	20

### その他

今後の展開	21
おわりに	22



#### 発行時期

2015年8月(次回発行、2016年夏予定)

#### 対象期間

本報告書に掲載した数値・データは、2014年度(2014年6月1日～2015年5月31日)の実績を集計したものです。

#### 対象範囲

(株)群桐産業および群桐エコロ(株)

#### 公表数値

公表数値につきましては、端数処理により合計が一致しない部分がございます。

#### 本報告書に関するお問い合わせ先

(株)群桐産業 総務部広報室  
TEL.0277-78-2479

本レポートは、当社ホームページでもご覧いただけます。  
<http://www.grr.co.jp>



群桐グループはISO14001の  
認証を取得しています。



株式会社 群桐産業  
群桐エコロ 株式会社  
環境総括責任者

群桐グループ会長  
山口 茂

### 基本理念

当社は、全ての事業活動において、私たちが出来る事は、人類が生きていくための環境を守り整えることであることを深く認識し、地域・顧客・パートナーとの信頼関係を深め、環境と経済の共存を図りながら地球にやさしい環境を考える企業として産業の発展に寄与します。

### 基本方針

当社は、産業廃棄物(特別管理含む)の収集運搬及び中間処理、廃油の再生処理を主な業務としていることを踏まえ、以下の方針に基づき環境管理を行います。

事業活動、製品及びサービスが環境に与える影響を的確に把握し、同時にこれらが係わる環境関連の法律、規制、協定の要求事項を明確にし、全社及び各部門毎に環境目的・目標・管理計画を定め、全員で取り組み、環境保全活動の継続的な改善及び質の向上に努めます。

事業活動、製品およびサービスに係わる環境関連の法律、規制、協定を遵守し、さらに地域活動との協調により一層のリスクマネジメントに取り組みます。

また、お客様や関係業者地域社会や国との良好なコミュニケーションのため、積極的な情報開示に取り組みます。

環境保全と汚染防止の重要性を認識し、事業活動、製品及びサービスに係わる環境影響のうち以下の項目を環境管理の重点テーマとして、環境汚染の防止に取り組みます。

循環型社会に適合した廃棄物の回収及び再生処理により

(1)資源保護・再利用・再利用率に配慮した製品を提供します。(省資源)

環境型社会を目指す事業活動として

(2)エネルギーの効率的利用をします。(省エネ)

(3)廃棄物の削減と適正処理とともに100%リサイクルの達成を目指します。

(4)環境影響の大きい廃棄物の焼却について、二次的な環境汚染を防ぎ、設備の適正管理を行います。

定期的に内部環境監査を実施し、環境マネジメントシステムの見直しと自主管理の維持・向上に努めます。

環境教育、社内広報活動などを実施し全社員の環境方針の理解を図るとともに、協力企業構成員にも伝達し、環境に関する意識向上を図ります。

この環境方針は一般に公表します。

## 産業を支え、地球環境を守る



### 株式会社 群桐産業

#### 【主な事業内容】

- 産業廃棄物収集運搬
- 廃油回収及び販売
- 汚泥、廃油及び医療系廃棄物焼却処分

#### 【従業員数】

80名(2015年5月現在)

#### 【売上高】

27億3,700万円(2014年度)

群桐グループ本社及び営業部門。  
多数のドライバーを有し、お客様から廃油をはじめとする産業廃棄物を回収します。  
また、焼却プラントでは医療系廃棄や廃プラスチック類、汚泥や塗料、水溶性廃油などを焼却処理しています。  
焼却処理後に発生する飛灰と燃え殻は、グループ会社の群桐エコロ(株)に溶融リサイクルを委託しています。  
営業、総務、プラント作業員、回収ドライバー等多種の職種が存在し、群桐エコロ(株)の営業・回収も行います。



事務所外観

会社名 株式会社 群桐産業  
代表者 濱屋 博  
資本金 6,000万円  
住所 群馬県太田市藪塚町3201  
連絡先 TEL 0277-78-2479/FAX 0277-78-5084  
E-mail info@grr.co.jp  
URL <http://www.grr.co.jp>



プラント外観(敷地面積 6,000㎡)

社長メッセージ

## 安全・環境に配慮したシステムで よりよいサービスをお届けいたします

(株)群桐産業 代表取締役  
濱屋 博



### 2014年度を振り返って

2014年度は秋に再生重油製造部門が群桐エコロへ全面移行することを受け、再生重油原料廃油の引き取り量増大、焼却施設の更なる順調な稼働、加えて(株)群桐産業・群桐エコロ(株)両施設の営業面での強化充実が要求されました。

原料廃油引き取り量は営業部門、収集運搬部門が一体となり日々努力を続けた結果、1月～12月で前年比110.16%の17,488.48klと新記録を達成しました。焼却施設においては、処理品目の主力である感染性廃棄物と不燃性廃油の処理引き受け量の確保に向け、全部署が連携しつつ取り組みを強化し安定稼働を継続することができました。

また営業部門においては、群桐エコロでのPCB廃棄物無害化処理の委託獲得に向け官民間問わず営業を展開。低濃度PCB絶縁油の処理については徐々に実績を積み上げており、2016年春には操業開始されるトランス・コンデンサ等筐体処理の委託獲得に向けた活動も開始しております。

秋には旧医療系廃棄物保管庫と旧油水分離施設跡地に新保管棟建設が始まり年度内に完成しました。廃棄物受け入れ作業の利便性の向上と医療系廃棄物保管の充実を目指します。

群桐産業は2014年11月で創立30年を迎えました。10月にはこれまでご愛顧ご協力いただきましたお客様をはじめ様々な業界の皆様とともに祝宴を設けることができました。ただ感謝の言葉しかございませんが、今後とも群桐グループ挙げて切磋琢磨し社会貢献に努めてまいります。これからもよろしくお願い申し上げます。



# 地球に優しく、共に生きてゆく企業であり続けます



### 【主な事業内容】

- 廃棄物焼却溶融処理及び人工砂製造販売
- 廃油の油水分離処理及び再生重油販売

### 【従業員数】

60名(2015年5月現在)

### 【売上高】

23億3,600万円(2014年度)

群桐グループ施設管理部門。

(株)群桐産業がお客様から回収または収集運搬業者から持ち込まれた廃油を、自社システムでリサイクル処理し再生重油として販売しています。リサイクルできない廃油やその他の産業廃棄物は、焼却溶融処理して溶融スラグから人工砂を製造。主にアスファルトの下に敷く路盤材の原料やコンクリート骨材といった用途で使用されています。

従業員構成は数名の事務員を除くと、プラントの作業員が殆どの割合を占めています。

全国でも希少な焼却溶融施設を擁し、最終処分場として(株)群桐産業からの燃え殻も処理します。

会社名 群桐エコロ 株式会社

代表者 山口 博

資本金 2,000万円

住所 群馬県太田市新田大町600番26

連絡先 TEL 0276-55-0500/FAX 0276-55-0501

E-mail info@grr.co.jp

URL <http://www.grr.co.jp/ecologista/>



事務所外観



群馬ハイブリッドクリーンセンター(敷地面積 23,428.83㎡)

社長メッセージ

## 「脱・埋立」 廃棄物から新たな資源へ

群桐エコロ(株) 代表取締役  
山口 博



### 2014年度を振り返って

2014年度は焼却溶融施設及び油水分離施設がともに順調に稼働し、売り上げも増加しました。油水分離処理に係る「廃油」は、群桐産業による調達量の増加に伴い、製品である「再生重油」の製造・販売量が増加しました。また焼却溶融処理については、「低濃度PCB廃棄物」の取扱いがスタートしましたが、トランス・コンデンサなどの筐体が取扱えないことから業績は伸び悩みました。しかし筐体については2016年度からの取扱い開始に向けてプロジェクトが進行しています。その他の廃棄物については、排出事業者様、収集運搬業者様にご愛顧頂き、また群桐産業の営業部及び収集運搬部門の活躍によって順調に集荷できました。そして安定的に処理し、製品である「サーブルオール®」を良質な人工砂として順調に出荷することができました。

環境負荷の低減に向けた取り組みについては順調に推移しています。更なる省エネや省資源、リサイクルについての研究を積み重ね、2015年度はその実現に向けた具体的な活動につながるよう努めたいと思います。

人材の育成や増強については、グループ全体としてまずまずの状況でしたが、今後の事業拡大に向けてさらに注力していきたいと考えています。また同時に福利厚生の実施も図っていきたく思っております。

最後に、2014年度が有意義で充実した年であったことに関して、群桐グループ社員をはじめ、全ての関係各位に心から厚く感謝申し上げます。

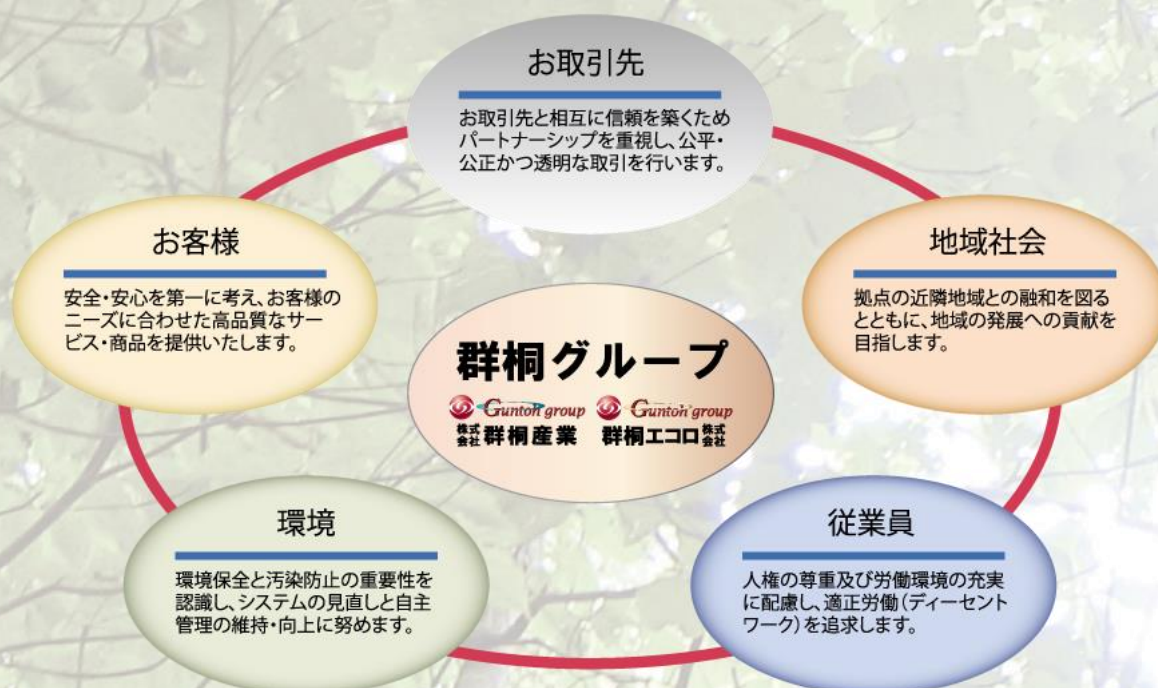


### ① コンプライアンス

#### コンプライアンス経営体制

群桐グループは、遵法意識の一層の強化充実を図り社会的信頼を確立するため、グループ全従業員の行動原則となる「群桐グループコンプライアンス基本方針」を制定するとともに、役員及び全従業員への日常行動の具体的な指針である「コンプライアンス・マニュアル」の配布や教育研修の実施等により、コンプライアンス意識の向上、徹底に努めています。

#### 群桐グループコンプライアンス基本方針およびステークホルダーとの関わり



#### コーポレート・ガバナンス

群桐グループは、内部組織をさらに拡大・充実させ、適時・適切かつ積極的に情報開示を行うとともに、企業倫理と遵法意識に則った誠実な企業活動を実践することにより、コーポレート・ガバナンスの充実に努めていきます。



## ② リスクマネジメント

### 情報セキュリティ対策

(株)群桐産業では、機密管理を強化するために情報管理の徹底を図っています。情報システムのセキュリティは外部の専門業者に委託。また主にソーシャルメディア利用に関する情報発信においては、従業員向けのルール(ガイドライン)を策定し、独自判断でやって良いこと・承認が必要なこと等、行動基準を策定しています。

これらは社員の教育研修においても重要視され、今年の4月から新卒・中途問わず新入社員には必ず機密管理教育を開始。さらなるセキュリティ強化と従業員の意識向上を図っています。

### 労働安全マネジメントシステム

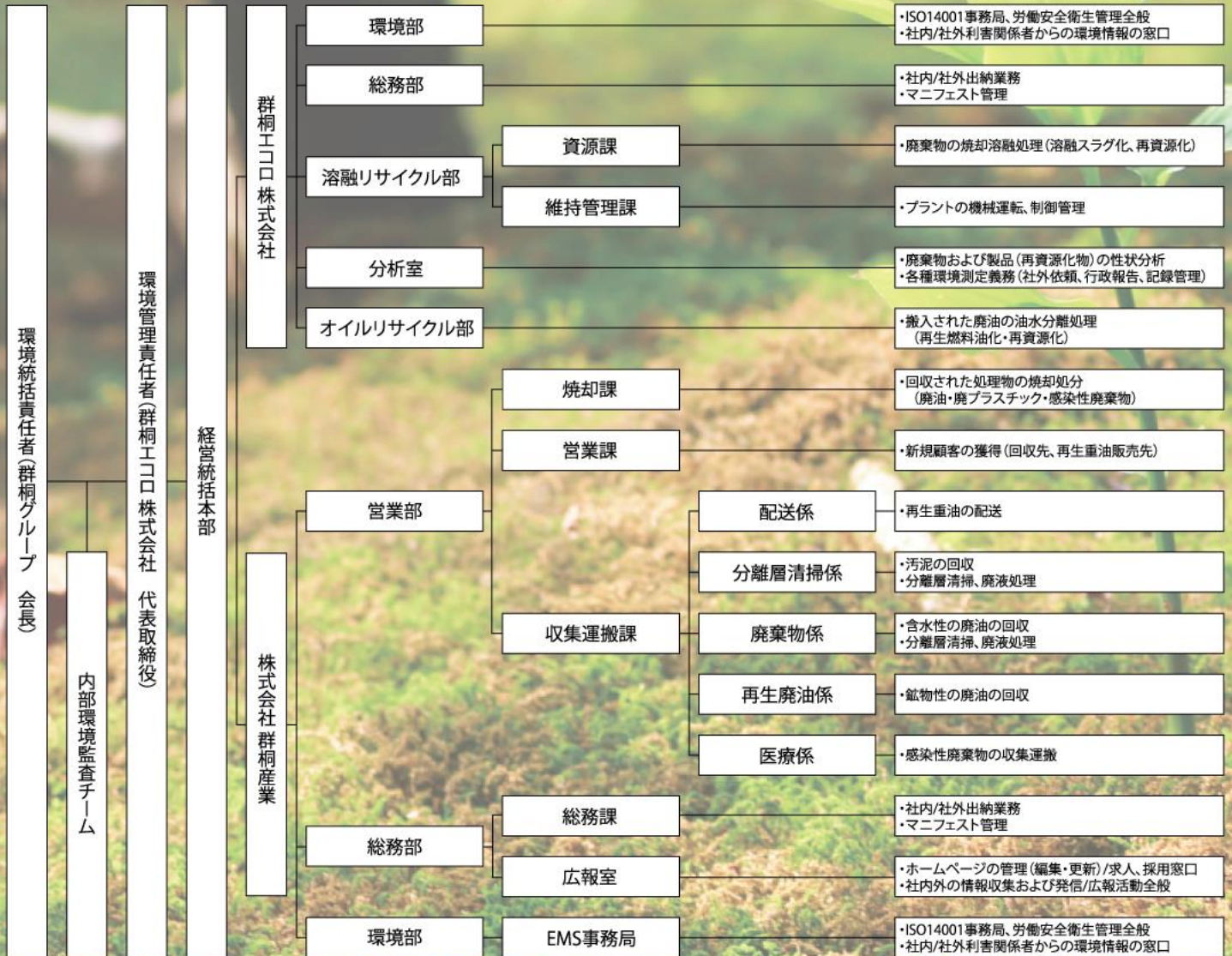
(株)群桐産業及び群桐エコロ(株)では両社それぞれに安全衛生委員会を設置し、安全対策及び安全衛生計画を立案し推進しています。安全衛生委員会では「労働無災害継続」を宣言し、経営層と従業員が一体となり重大な労働災害の防止や自然災害発生時の影響を最小限にする体制づくりなどに取り組んでいます。更に、リスクアセスメントによる設備の安全対策や災害防止対策を審議するとともに現場のパトロールを行い、ルール遵守の徹底や安全教育の実施により、安全に対する意識向上に努めています。

また、各安全衛生委員会事務局は、可能な限り両社の安全会議に出席して情報を共有しています。



# Organization chart

## 環境組織図



当社の環境組織図は上図のようになっています。

群桐グループの会長を環境総括責任者とし、群桐エココ(株)の社長を管理責任者としています。また、各課の責任者は内部監査官としてEMS(環境マネジメントシステム)事務局と共にチームを編成し、年1回の内部監査を実施しています。

EMS事務局は、環境部が主幹しており、環境管理責任者と共に環境活動における重要な役割を果たしています。

環境管理責任者は、主に法律関係や環境目的・目標・プログラム等に関わる業務の管理並びにその他業務の管理及び承認を行います。

環境総括責任者は、各種重要項目の承認並びに環境管理計画の見直しによる是正・改善を、環境活動が継続的かつ効果的に運用されるよう環境管理責任者に指示します。

### 損益計算書

#### 株式会社 群桐産業

平成26年6月1日～平成27年5月31日 (単位:千円)

売上高	2,737,174
売上原価	2,031,642
<b>売上総利益</b>	<b>705,532</b>
販売及び一般管理費	410,700
<b>営業利益</b>	<b>294,832</b>
営業外収益	26,494
営業外費用	18,385
<b>経常利益</b>	<b>302,941</b>
税引前当期純利益	292,024
法人税等充当額	87,122
<b>当期純利益</b>	<b>204,902</b>

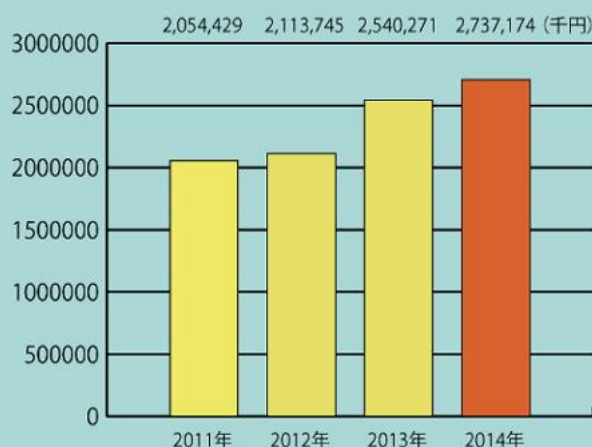
#### 群桐エココ 株式会社

平成26年4月1日～平成27年3月31日 (単位:千円)

売上高	2,337,364
売上原価	985,298
<b>売上総利益</b>	<b>1,352,066</b>
販売及び一般管理費	1,269,744
<b>営業利益</b>	<b>82,322</b>
営業外収益	13,493
営業外費用	42,316
<b>経常利益</b>	<b>53,499</b>
税引前当期純利益	53,216
法人税等充当額	28,810
<b>当期純利益</b>	<b>24,405</b>

### 売上高の推移

株式会社 群桐産業



群桐エココ 株式会社



2014年度は(株)群桐産業・群桐エココ(株)合わせて一つの目標である売上高50億を達成いたしました。今後は次の目標である売上高100億円に向かって業務に励んでいく次第でございます。

より詳しい財務諸表は弊社ホームページより産廃情報ネットにお入りいただき、ご参照いただければ幸いです。

# Improvement of working environment

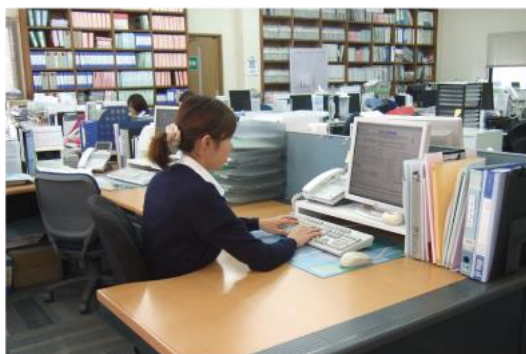
## 労働環境の向上

### 働きやすい環境づくり

#### ◆福利厚生・各種手当の充実

群桐グループでは、全ての従業員にとって働きやすい職場環境を整えることを目指しています。事務所の禁煙化をはじめ育児休業や子供の看護休暇、セクシャルハラスメント対策等、特に女性の就業に配慮しています。

また、各種手当が充実しており、扶養の親まで該当する家族手当や子供への教育手当等があります。



就業規則には「セクシャルハラスメントの禁止」項目があり、女性スタッフも安心して職務に励んでいます。

#### ◆週休二日制の導入

群桐グループでは2015年4月より毎週土日(祝)を定休日とする完全週休二日制を導入いたしました。これにより、年間の休日が89日から120日超と大幅に増加し、社員も休日を存分に謳歌できるようになりました。

平日に集中して質の高い仕事をし、休日にリフレッシュするというメリハリがつけやすくなり、更なる生産性の向上・人員の増加が期待できます。

#### ◆社員の健康管理

群桐グループでは、年1回(プラント作業従事者は年2回)、社員を対象とした健康診断が実施されます。また、希望者は会社負担でインフルエンザの予防接種も受けることができます。

さらに、産業医によるカウンセリングも実施されており、これにより社員の健康障害の予防と共に、心身の健康が保たれています。

### 社内コミュニケーションの充実

#### ◆社員研修旅行

群桐グループでは、年1回、(株)群桐産業と群桐エコロ(株)の全社員(見習い・パート含む)で社員旅行に行っています。

宴会の席では永年勤続の表彰式が行われ、今回は7名の社員が該当し、表彰されました。一部を除き普段あまり顔を合わせない両社間でのコミュニケーション活性の場となっています。



2014年11月、松本城にて。

#### ◆サークル活動(部活動)発足

群桐グループでは、グループ会社間でのコミュニケーションの更なる充実を図る目的で、この度社内特別活動(部活)を発足いたしました。

これは各従業員がそれぞれやりたい活動を書き出し、会社と社員の賛同を得たものだけが特別活動として認められ、部費なども予算から出るというものです。まだまだ発足して間もない特別活動ですが、会社間や社員と経営陣との垣根を越えての交流が予想されます。



2015年5月に開催された群桐グループ合同の全体集会。この場で部活動発足について色々な案を出し合いました。

## 女性社員活躍の場の拡大

群桐グループでは、女性社員の活躍の場においても従来の総務部門のみならず群桐エコロの分析スタッフや現場作業の大型ドライバー・プラントスタッフ等年々拡大しています。

また、女性管理者についても、年々増加しており、2015年4月現在は、総務課長1名、常務取締役1名、専務取締役1名(全て<sup>(株)</sup>群桐産業)と重要なポストに配置しております。

群桐グループは今後さらに女性の活躍の場が広がるよう積極的に女性の育成登用を推進していきます。



高度な専門知識が必要とされる分析スタッフ。能力と適正次第で様々な活躍のチャンスがあります。

## 新卒者の定期採用

群桐グループでは常に優秀な人材の確保に力を入れています。県内外の各所で開催されている合同企業説明会には積極的に参加し、会社見学や面接も随時受け付けています。

また、会社独自の面接説明会も開催して、新卒者の採用に余念がありません。2015年4月には群桐産業・群桐エコロ併せて3名の新卒者が採用となりました。

## 再雇用制度

群桐グループでは、定年退職者の継続雇用を行っています。再雇用期間は最長65歳までとして、心身ともに健康で会社規定上問題がない場合は希望者全員が就労できる制度がごございます。

これは退職した社員が会社で培った知識や経験・スキルを即戦力として生かすために、再度群桐グループでご活躍いただくための制度です。

## 多様な人材育成の推進

### ◆教育プログラムの充実化

企業が継続的に成長するには、人材育成と技術・技能の確実な継承が不可欠です。「仕事を通じて人材を育てる」という観点に立ち、群桐グループの組織力向上と将来を担う人材の育成に取り組んでいます。

当グループでは従業員一人ひとりを“産業廃棄物のプロ”として育成するために、新卒・中途を問わず新入社員の教育には特に力を入れています。また、上司が部下のOJTをきちんと指導できるよう長期的な視野で個人と向き合って仕事の管理をしています。

今後も実務に沿った教育・研修プログラムの充実と共に、それぞれが実力を発揮できる職場の環境整備を行います。

### ◆資格取得支援制度を通じた自己啓発の推進

社員一人ひとりがチャレンジ精神を持って自身の資質を高めるための自己啓発支援の一環として、業務に直結した資格の習得を目的とした資格取得支援を行っています。

具体的には資格取得に掛かる費用の無期限貸し付け及び定額返済制度が主となっており、これにより大型自動車免許等の高額で時間がかかるような資格(免許)であっても、働きながら無理なく取得することが可能となっています。

### ◆外部講師による研修

群桐グループでは、各関連団体が主催するセミナーや研修会へ参加も積極的に推奨しています。

また、社員が講師を務める社内研修の他に外部より講師を招いて行う研修も取り入れています。



外部講師によるセミナー。内容は新卒向けのマナー研修から営業研修、保険・資産運用と様々です。

### 地域社会への貢献



太田市合併10周年記念事業の一環で、平成27年3月末に公開となった映画「群青色の、とおり道」に協賛させていただきました。  
また、弊社グループの社員4名がエキストラとしてこの度撮影に参加させていただきました。



#### ◆寄附・協賛等（抜粋）

- 12月 健康づくり財団（結核予防会）
- 12月 平成26年度やぶづか産業祭
- 9月 第31回やぶ塚かかし祭り
- 9月 第16回ぐんま環境フェスティバル

寄付  
協賛  
協賛  
協賛

### TOPIX

2014年6月23日、太田市社会教育総合センターにて、太田市功労者及び徳行者表彰式がございました。  
群桐グループは昨年8月、太田市に車輛（スバル・フォレスター）を寄付したことにより、徳行者として表彰されました。  
今回の表彰式は功労者が41名、徳行者が10名で、群桐グループの山口会長が徳行者を代表して表彰状を受け取りました。



### 工場見学 対応（抜粋）

2014年7月4日

第83回 関東甲信越地区産業廃棄物処理対策連絡協議会 様

今回は50名近い人数でお越しのため、7つのグループに分かれて各営業担当がご案内。

PCB処理施設をメインに、廃棄物から人工砂「サーブルオール」が製造される工程を見学されました。



2014年8月6日

平成26年度  
太田市サイエンスアカデミー 様

太田市の児童がサイエンス(科学)への関心を高め、明日の太田を支える人材の育成を図ることを目的として開講されている太田市サイエンスアカデミー。

昨年に引き続き、今年も2班に分かれて約50名の児童(5年生と6年生)が群馬ハイブリッドクリーンセンターに見学にやってきました。

この日は37℃を越える猛暑日で、見学は大変でしたが、地域交流の一環として子供たちに群桐グループの仕事を知ってもらう良い機会となりました。

## 地域交流

### 群大ゼミ生見学

平成26年10月22日、群馬大学社会情報学部大野ゼミナールの皆様が、経営学研究のため群馬ハイブリッドクリーンセンターを訪れました。

「教科書の中の経営」だけでなく「生きた経営」を実感出来る機会を設けていただきたいとの要請に応え、未来を担う学生達に経営の現場や工場見学の他、山口会長が講義を行い、学習の場を提供いたしました。



### 第11回東和新生会ビジネス交流会 参加

平成26年11月5日、ヤマダグリーンドーム前橋にて東和新生会(東和銀行)主催のビジネス交流会が開催されました。

製造業やサービス業、食品関連小売業など様々な業種がブースを出展する中、(株)群桐産業も群桐エコロ(株)で製造される人工砂サーブルオールを紹介するため、出展いたしました。

弊社ブースにも多くのお客様がお越しになり、商談になったりと有意義な交流ができました。



### 第10回アースデイin桐生2015 参加

平成27年4月19日、群馬大学理工学部 桐生キャンパスにて第10回アースデイin桐生2015が開催されました。

屋内外で色々な屋台やイベントブースが設置される中、コンクリートの研究をされている小澤准教授と合同で群桐グループも出展。群桐エコロ(株)で製造される人工砂サーブルオールの展示、コンクリート二次製品の弾性実演や圧縮破壊試験などを行いました。

家族連れのお客様も多数来場され、地元の方達と触れ合うことができました。



# Environmental goal and track record

## 環境目標とその実績

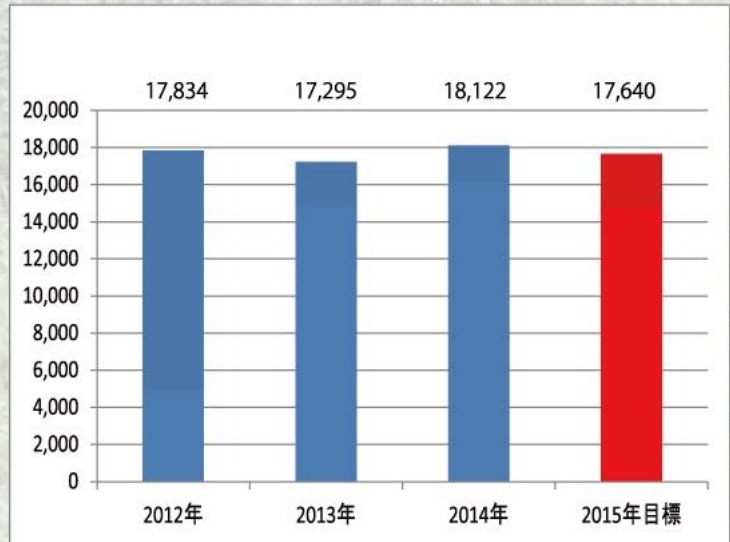
### ①再生重油販売量

「循環型社会及び資源の有効活用に配慮した製品の提供」として、廃油の燃料化を推進しています。これにより、新たな化石燃料の消費を抑制することで省資源に寄与します。

14年度の目標に対しては、プラス655KLとなり、達成率は103.7%となりました。前年度半ばからの取り組みである独自の顧客管理システムが機能し、また関係部署の連携や関係者全員の努力が実った結果であると、非常にポジティブに捉えています。

次年度については中期計画、目標値が低くなっていますが、「廃油」と「再生重油」を取り巻く環境は様々な情勢の変化の影響を受け易いことから、これまでの活動をより一層確実なものとしながら、かつ慎重に取り組むことで、目標の達成に向けて努力して参ります。また、目標値の上方修正についてもタイミングを計りながら検討していきたいと考えております。

12-14年 再生重油販売量 (KL)



### ②CO<sub>2</sub>排出量削減

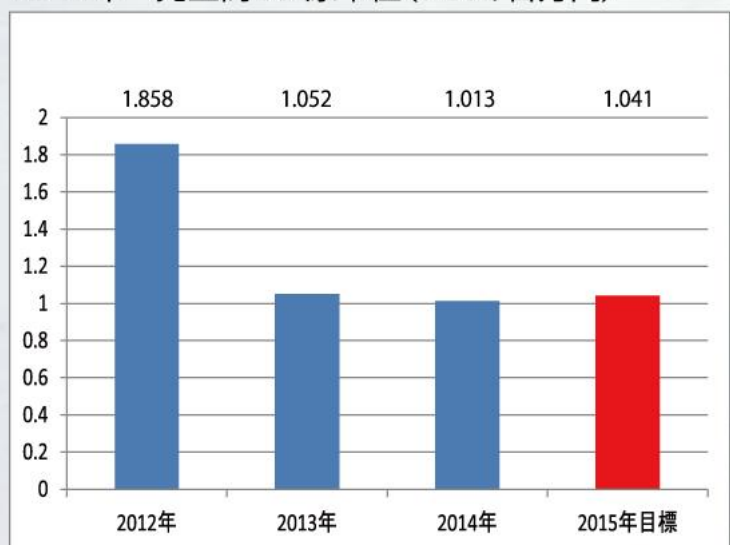
「地球温暖化(気候変動)防止活動」として、売上高CO<sub>2</sub>原単位排出量の削減に努めています。

14年度は目標値1.046t-CO<sub>2</sub>/百万円に対して、僅かながら抑えることができました。

順調に売上高が増加する中で、事業活動に伴うエネルギー消費の抑制、省エネの取り組みが有効であったと言えます。

GPSを活用した効率的で無駄のない車両の運行や、設備機器の点検整備による安定稼働、廃熱を利用した発電、その他事務所等における節電など様々な取り組みの成果です。次年度以降も引き続き目標の達成に向けて努力して参ります。また、CO<sub>2</sub>の排出抑制については限りなく取り組むべきことであると考え、新たな省エネに関する取り組みについても検討を続けて参ります。

12-14年 売上高CO<sub>2</sub>原単位 (t-CO<sub>2</sub>/百万円)





### ③ 廃棄物焼却量

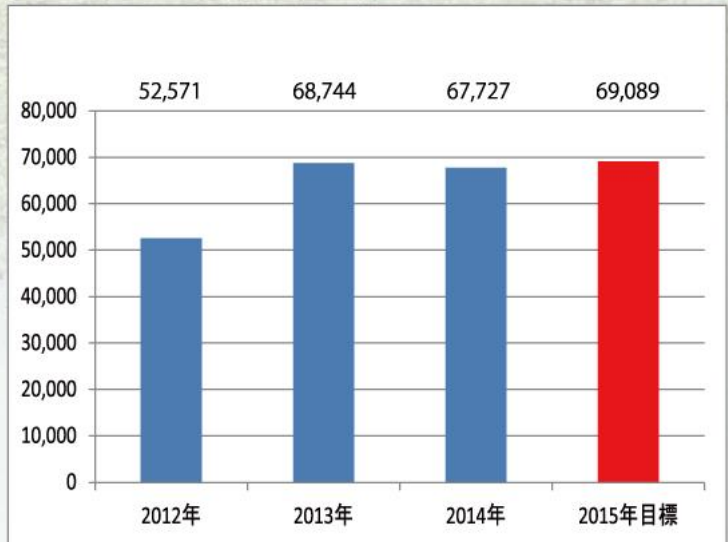
循環型社会を目指す事業活動として、受け入れた廃棄物の焼却処理後の燃え殻を熔融処理または廃棄物を直接熔融処理することで、埋立処分せず建設資材として利用できるようにしています。従って当グループでの廃棄物の焼却処理量の増加は、循環型社会の構築に寄与します。

14年度は目標値68,916.85tに対して67,727tとなり、98.27%の達成率となりました。施設の稼働率は概ね良好であったのにも関わらず目標が達成できなかった要因としては、受け入れた廃棄物の発熱量が一因として挙げられます。焼却処理能力は、焼却炉における熱負荷及び排ガス量によって制限を受けるため、平均発熱量が高くなると定格処理能力を発揮できなくなり

ます。高発熱量の廃棄物の受け入れが増加傾向にあることから、若干の調整が望ましいと思われ

ます。施設の稼働率についてもさらなる改善に向けて努力し、焼却処理量の増加に努めて参ります。

12-14年 廃棄物焼却量 (t)



### ④ 水の使用量削減

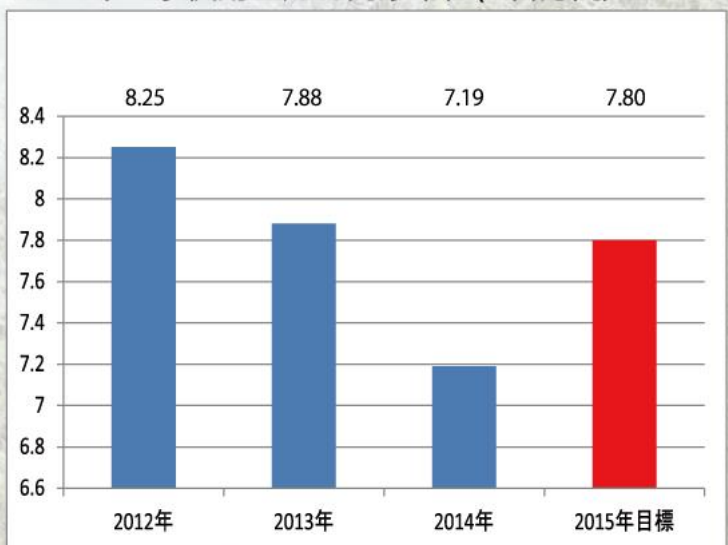
エネルギーの効率的利用(省エネ)として、売上高原単位で水(上水のみ対象)の使用量の削減に努めています。

14年度は目標値7.8482t/百万円に対して91.6%ということで、当初の見込み以上に削減することができました。売上高の増加が大きく寄与しましたが、雨水の有効利用や節水の取り組みにも一定の成果があったと考えます。

事業活動の拡大に伴う影響として、エネルギー消費によるCO<sub>2</sub>排出量の増加に比べると、上水の使用量の増加は軽微であると言えます。

次年度の目標値は中期計画上低い値となっておりますが、引き続き目標の達成に向けて努力して参ります。また、目標値の上方修正についてもタイミングを計りながら検討していきたいと考えております。

12-14年 水使用量売上高原単位(t/百万円)



# Environmental initiatives

## 環境への主な取り組み

### エコキャップ

群桐グループでは、毎年ペットボトルのキャップを「エコキャップ推進協会」へ送っています。これをエコキャップ推進委員会が再資源化業者へ売却し、その収益がワクチン購入資金として「JCV(世界の子供にワクチンを日本委員会)」に寄付されます。



### 緑のカー

今回で3度目となる「緑のカーテン」の設置。この夏も省エネに活躍してくれました。(株)群桐産業はゴーヤを、群桐エコロ(株)では他にミニトマトやキュウリ等色々な野菜を育てて、来社するお客様の目を楽しませました。十分に育ったら頃合いを見計らって収穫し、お客様や社員におすそ分けしました。

### 会社周辺美化活動

(株)群桐産業では年1回、群桐エコロ(株)では年2回の割合で、「会社周辺美化活動」と称するごみ拾いを実施しています。早朝から実施されるこの活動は、地域の環境美化とともに社員の環境意識の向上に繋がっています。



廃棄物(回収:群桐産業)

搬入



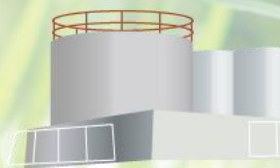
搬入

群桐グループ 廃棄物処理フロー



【(株)群桐産業 焼却プラント】  
中間処理(焼却)

燃え殻  
煤塵



### エコドライブ

(株)群桐産業では50台を超える大型車両を保有しており、廃棄物回収の際により効率的に業務が遂行できるよう徹底した運行管理によって無駄のないルート回収をしています。ドライバーには余分な排気ガス排出の抑制をはじめとした環境と安全に配慮したエコドライブを推奨しています。



### ISO更新審査

2014年7月22日～24日の3日間、群桐グループではISO14001認証審査機関(SGSジャパン株式会社)による更新審査が実施されました。期間中は審査員による書類審査や社員インタビュー、作業立会審査等が行われ、後日無事に審査登録証が届きました。



ーテン



## 水使用量の削減

群桐グループの焼却施設では、排ガスの冷却に雨水を利用しています。

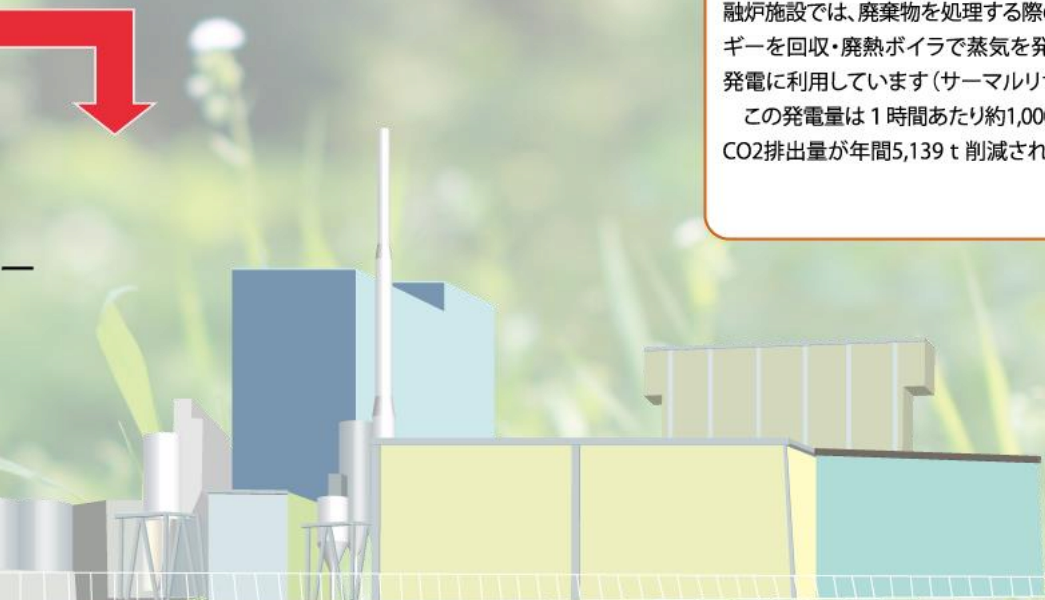
また、群馬ハイブリッドクリーンセンターでは、機器の冷却やボイラにおいて水の循環利用をはじめとする効率的な利用に取り組み、水使用量の削減に努めています。



## サーマルリサイクル

群馬ハイブリッドクリーンセンターの焼却溶融炉施設では、廃棄物を処理する際の熱エネルギーを回収・廃熱ボイラで蒸気を発生させて、発電に利用しています(サーマルリサイクル)。

この発電量は1時間あたり約1,000kwとなり、CO2排出量が年間5,139 t 削減されます。



【群桐エコロ(株) 群馬ハイブリッドクリーンセンター】  
最終処分(焼却溶融、油水分離)

リサイクル(出荷)



再生重油(配送:群桐産業)



人工砂(サーブルオール)



## ソーラーパネル

太陽光発電の推進を掲げる太田市に倣い、群桐エコロ(株)では事務所と倉庫の屋根にソーラーパネルが設置されています。

太田市では年間を通して日照時間が多く、太陽の恵みを豊富に享受できます。更に来年は、(株)群桐産業の事務所と倉庫の屋根にも設置を予定しています。



# Measurement of air environment

## 大気環境測定結果

群桐グループでは、周辺環境への影響を常に把握するため、ダイオキシン類やばい煙等の測定を行い、その結果をホームページで常時公開しています。

### ◆大気環境測定結果(直近値)

測定：平成理研 株式会社

#### 1. ダイオキシン類

対象施設：株式会社 群桐産業 焼却施設

資料採取日：2014.10.8 証明書発行日：2014.11.25

項目	測定結果	基準値	自主基準
排ガス	1.1 ng-TEQ/m <sup>3</sup> N	5 ng-TEQ/m <sup>3</sup> N	4.0 ng-TEQ/m <sup>3</sup> N
焼却灰	0.010 ng-TEQ/g	3 ng-TEQ/g	2.4 ng-TEQ/g
飛灰(ばいじん)	0.38 ng-TEQ/g	3 ng-TEQ/g	2.4 ng-TEQ/g

対象施設：群桐エコロ 株式会社 焼却溶融施設

資料採取日：2014.7.17 証明書発行日：2014.8.7

項目	測定結果	基準値	自主基準
排ガス	0.021 ng-TEQ/m <sup>3</sup> N	0.1 ng-TEQ/m <sup>3</sup> N	0.1 ng-TEQ/m <sup>3</sup> N
焼却灰(溶融固化物)	0.000064 ng-TEQ/g	3 ng-TEQ/g	2.4 ng-TEQ/g
飛灰(ばいじん)	0.67 ng-TEQ/g	3 ng-TEQ/g	2.4 ng-REQ/g

#### 2. ばい煙(ばいじん、硫黄酸化物、窒素酸化物、塩化水素)

対象施設：株式会社 群桐産業 焼却施設

項目	測定結果		基準値	自主基準
	資料採取日：2014.10.8 計量証明発行日：2014.10.17	資料採取日：2015.4.21 計量証明発行日：2015.5.8		
ばいじん濃度	0.002 g/m <sup>3</sup>	0.003 g/m <sup>3</sup>	0.15 g/m <sup>3</sup>	0.12 g/m <sup>3</sup>
硫黄酸化物量(K値)	0.12 m <sup>3</sup> /h	0.070 m <sup>3</sup> /h未満	8.0 m <sup>3</sup> /h	6.4 m <sup>3</sup> /h
窒素酸化物換算濃度	49 ppm	32 ppm	250 ppm	200 ppm
塩化水素換算濃度	74 mg/m <sup>3</sup> 未満	60 mg/m <sup>3</sup> 未満	700 mg/m <sup>3</sup>	560 mg/m <sup>3</sup>

対象施設：群桐エコロ 株式会社 焼却溶融施設

項目	測定結果		基準値	自主基準
	資料採取日：2015.2.19 計量証明発行日：2015.3.3	資料採取日：2015.4.17 計量証明発行日：2015.5.8		
ばいじん濃度	0.004 g/m <sup>3</sup>	0.007 g/m <sup>3</sup>	0.04 g/m <sup>3</sup>	0.02 g/m <sup>3</sup>
硫黄酸化物量(K値)	6.3 m <sup>3</sup> /h	0.34 m <sup>3</sup> /h	17.5 m <sup>3</sup> /h	6.0 m <sup>3</sup> /h
窒素酸化物換算濃度	66 ppm	49 ppm	250 ppm	150 ppm
塩化水素換算濃度	45 mg/m <sup>3</sup>	39 mg/m <sup>3</sup> 未満	700 mg/m <sup>3</sup>	150 mg/m <sup>3</sup>

# Measure for safety

## 安全対策

### 避難誘導及び消火訓練

群桐グループ各社では年1回、有事に備え避難誘導訓練及び消火訓練を実施しています。

弊社プラントでは廃油を中心とした様々な危険物を取り扱っているため、従業員は毎年消防訓練を実施し、いつ災害が起きても適切な行動ができるよう繰り返し訓練を行っています。



(株)群桐産業事務所前にて消火訓練。この後はプラントに移動して、消火栓を用いた放水訓練も行いました。

### 油流出対応訓練

群桐エコロ(株)では、毎年油の流出事故に備えての対応訓練を実施しています。タンク配管からの流出や、ドラム缶の横転などを想定して、適切な処置ができるよう訓練を行います。

訓練の後は作業員同士でミーティングを行い、緊急時対応手順表や連絡表等を見直して作成しています。



低濃度PCB保管タンクでの流出を想定した対応訓練。いずれの場合も、初動での適切な処置が極めて重要です。

### 安全教育・教育訓練

従業員のヒューマンエラー防止の観点から群桐グループでは、毎月1回の安全教育及び教育訓練を行っています。

また、毎年5月31日を「群桐グループ防災の日」と制定し、今年は5月23日に太田市学習文化センター視聴覚ホールにて群桐グループ全従業員による安全教育講習会及び全体集会を開催いたしました。



DVD視聴を中心とした安全教育の様子。

### 交通安全運動

プラント構内での車両通行におけるルールの再認識をしていただく狙いから2015年5月18日、群桐エコロ(株)で第一回交通安全運動(立哨活動)を行いました。

お客様や業者等プラント構内に乗り入れる車両を対象として、主にシートベルト着用、制限時速、一時停止及び進入禁止場所の順守等を目視確認いたしました。



朝7:45~8:05の間、構内入口付近にて15台確認。

### ① サーブルオール® ブランド化



群馬ハイブリッドクリーンセンターで製造される人工砂「サーブルオール®」。現在は主にコンクリート骨材やアスファルトの路盤材等に使用されていますが、今後は埋設工事やソーラーパネル設置時の雑草の発生抑制等、更に用途を広げていきます。

天然の山砂や川砂と比べて安価な上に同じ用途で使用できるので、可能性は無限に広がります。

また、今後はISO9001の取得も視野に入れており、商標登録と相まってブランド化も進めています。

### ② 固定床炉の稼働に向けて



群馬ハイブリッドクリーンセンターでは低濃度PCB廃棄物処理においては、現在金属筐体以外を処理しています。

2015年2月には金属筐体が無害化処理可能な固定床炉が完成し、実証試験が終了。現在は環境大臣の認定を待つのみとなり、2016年始の稼働を予定しています。

この施設が稼働すれば国が推進しているPCB廃棄物処理の促進に寄与し、地域社会に貢献するとともに関東近辺では他社との大きな差別化を図ることができ、当グループの強みとなります。

### ③ 新社屋建設



群桐グループでは、2014年11月に創業30周年を迎えた節目として、新社屋（本社ビル）の建設を予定しています。

新社屋が完成した暁には、営業部や総務部を移管し、またグループ会社を統括する機能を担います。

尚、着工は2015年秋となっております。

### 編集方針・後記

本レポートは、群桐グループに関係する全てのステークホルダーの皆様へ、当グループ全体の環境保全に向けた活動、ならびに社会に配慮した活動について深く理解していただき、より一層の信頼をいただくことを目的に編集いたしました。

報告にあたっては、ステークホルダーの皆様にお伝えしたい事項を重点的に取り上げることで、当グループの活動を理解しやすい紙面づくりに努めました。

本レポートは「経営」「社会」「環境」の3つの側面に特化して形成されています。群桐グループのその他の活動・取り組みにつきましては、弊社ホームページをご参考いただければ幸いです。

群桐グループは、産業廃棄物処理業者としてこれからも社会に貢献し続けていくことを目指します。また、更に新しい処理施設を計画中で、より環境に優しい処理方法を追求していく所存でございます。

株式会社 群桐産業 総務部広報室 家富 和之

### 環境管理責任者より

環境マネジメントシステムの認証を頂き運用を開始してから10年余りが経過しました。その間、群馬ハイブリッドクリーンセンターのサイト追加や収集運搬業務の拡大等によって活動が大きくなり、現在も新たな事業拡大に向けての計画を進めるなど成長を続けております。群桐グループの活動を信頼し、ご理解頂きながらご愛顧ご支援賜りましたお客様をはじめ、関係各位には心より感謝申し上げます。

群桐グループでは、お引き受けした廃棄物はすべて再資源化され完結します。しかもその廃棄物の多くは処理困難物であります。“世の中のいかなる廃棄物にも対応する”ということは難しいですが、可能な限り最適なリサイクルをご提案したいと考えております。

またここ数年、子供達による工場見学が行われていますが、これをさらに積極的に行うことで、環境や資源、安全で効率的な廃棄物処理やリサイクルについての知識を広め、また関心を持ってもらうことで、環境教育に少しでもお役に立つことができれば幸いであり、今後の環境社会において活躍できる人材の育成に寄与することとなればなお嬉しく思います。

今後も環境マネジメントシステムをフルに活用し、安全操業、無事故無災害を推進し、お客様並びに関係各位に更なる「安心」を提供していく企業として、成長し続けていきたいと思っております。

環境管理責任者 山口 博



**株式会社 群桐産業**

〒379-2301 群馬県太田市藪塚町3201  
TEL:0277-78-2479 FAX:0277-78-5084  
URL <http://www.grr.co.jp>



**群桐エコロ 株式会社**

〒370-0351 群馬県太田市新田大町600番26  
TEL:0276-55-0500 FAX:0276-55-0501  
URL <http://www.grr.co.jp/ecologista/>